

## 第4章 公安情勢

### 大衆運動

#### 反原発運動

平成23年中、福島第一原発事故を受け、反原発団体、環境保護団体等は、「原発いらない」、「子ども守れ」などと訴え、全国各地で、集会、デモに取り組みました。これらの集会やデモには、子供を持つ女性や若者から高齢者まで、市民が多数参加しました。

また、事故発生から3か月後、半年後といった節目の時期には、全国的な行動が呼び掛けられ、9月19日には、都内・明治公園で、労働組合、大衆団体等の多様な団体が集結して、国内の反原発運動で過去最大規模となる集会、デモが行われました（主催者発表約6万人）。

24年も引き続き、事故に起因する様々な問題を捉えて、労働組合、大衆団体等多様な勢力が集結し、反原発運動が取り組まれるものとみられます。



脱原発を求める集会(9月、東京)(共同)

#### 雇用問題関連

全国労働組合総連合（全労連）は、東日本大震災に起因する解雇や雇止めの問題を捉え、第82回メーデーで「大震災を口実とした首切り・賃金カット、中小零細企業切り捨てを許すな」などのスローガンを掲げ、集会やデモを行いました。また、23年7月に開催した第46回評議員会において、22年開催の第25回定期大会で示した方針に「被災者本位の震災復興の実現を求める運動」等に加え、**震災による雇用悪化を取り上げた署名行動**等を行いました。

全労連は、24年も、雇用情勢等を捉え、労働者派遣法の抜本改正や最低賃金の引上げ等を求める運動に取り組み、他の労働組合や市民団体等との連携を図りながら、組織拡大を図っていくものとみられます。



第82回中央メーデー(5月、東京)(時事)

## 海外の過激な反グローバリズム運動

23年5月、フランスのドーヴィルで開催されたG8サミットでは、反グローバリズムを掲げる勢力や労働組合等によるデモに約5,000人が参加しましたが、暴徒化した一部の参加者が警察官への投石や店舗の破壊等を行い、**約100人が逮捕**されました。

また、福島第一原発事故に伴う世界的な反原発運動の高まりを背景に、反グローバリズムを掲げる勢力は、環境保護団体等と連携しながら、5月にドイツ国内で行われた約16万人のデモを始め、欧州を中心に大規模な反原発デモに取り組みました。



ドイツでの反原発デモ(5月)(時事)

## 過激な環境保護団体

過激な環境保護団体「シー・シェパード」は、22年12月から行われた我が国の南極海調査捕鯨に対し、「妥協なき作戦」と称して、発煙筒や酪酸瓶を投てきたり、ロープを海中に投げ入れてスクリューに絡ませるなど**執拗かつ過激な妨害活動に取り組み**ました。この結果、23年2月、調査捕鯨を切り上げることとなり、シー・シェパードは、ウェブサイトで「勝利宣言<sup>たいじ</sup>」を行いました。

このほか、シー・シェパードは、22年9月から23年2月まで、和歌山県太地町のイルカ漁に抗議するため、活動家を同町に派遣して「監視活動」を行っており、この過程で、イルカ漁関係者に対する執拗な嫌がらせ等を行いました。



シー・シェパードの抗議船  
(財)日本鯨類研究所



発煙筒を投てきするシー・シェパードの活動家  
(財)日本鯨類研究所